

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	アスク新杉田保育園
経営主体(法人等)	株式会社 日本保育サービス
対象サービス	保育所
事業所住所	〒235-0032 横浜市磯子区新杉田町7-11 ｱｽｸ-新杉田1F
設立年月日	平成 20年 4月 1日
評価実施期間	平成 24年 7月 ～ 25年 2月
公表年月	平成 25年 7月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市評価基準
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
<p>【施設の特徴】</p> <p>アスク新杉田保育園は平成 20 年 4 月 1 日に開設された 4 年目の保育園である。園児数 40 名の小規模園であり、子どもたちはアットホームな雰囲気の中で一日を過ごしている。</p> <p>JR、京浜急行、シーサイドラインの 3 線が交差する駅から数分の場所の、マンションの一階部分を園は使用しており、交通機関を利用する保護者にとっては至極便利な場所にある。また、臨海側の近くには、大規模工場や広々とした公園やマリーナなどがあり、子どもたちが散歩などでゆったりと楽しむことができる。</p> <p>【特に優れていると思われる点】</p> <p>1. 全ての職員が全園の子どもを理解している</p> <p>クラスには各担当職員が配置されているが、小規模園であるが故に、ほかのクラスの職員も全ての子どもについて知っており、ほかのクラスの子どもの支援やケアができるようになっている。</p> <p>これは園内の毎日会議を重要会議と位置づけ、園のすべての様子を伝え合っていることで実現できている。</p> <p>2. 職員の子どもの前向きな姿勢を伸ばそうとする褒め方</p> <p>子どもの遊びなどで、ほかの子どもたちのお手本となるようなすばらしいことができると、その子どもをその場でほめ、そのことをお友達にも紹介し、みんなで共有できるようにしている。（例：おもちゃやハンカチを箱の中に入れて片付けをしたときの整理の仕方が、あとで誰もが取り出しやすいような収納の仕方をしたとき）</p> <p>3. 子どもの自主的な活動を支援</p> <p>異年齢児保育で取り組んだお店屋さんごっこでは、職員がテーマを示すと、あとは子どもたちだけで話し合いながら、好きなお店を決めたり、メンバーを決め、進め方を決めたりしている。職員はちょっとしたアドバイスをするとともに、その決定プロセスを見守るようにしている。そして結果を子どもと職員でともに喜び合うようにしている。</p> <p>また、子どもたちはイスや机、おもちゃなどあらゆる物で自らコーナーを作って、自分たちで遊びを考えている。</p>	

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1. 毎日の送迎時の保護者とのコミュニケーションに一工夫を

送迎時の混雑した時間帯に、すべての保護者とのコミュニケーションを図ることは、他の子どもの支援などがあり、非常に困難なことです。個々の子どものエピソードなどをあらかじめメモなどで準備しておき、担当がいなくても伝えることができるような工夫が望まれます。

また、話が困難な場合でも一言でも会話ができるような工夫が望まれます。

2. 地域との交流に一步を踏み出しましょう

地域の特性から、地域の団体などとの交流は難しいと思われませんが、保育園の子どもたちが地域の中で毎日生活をしていることから、地域の方々とできるだけ協力関係にあることが望ましいと思われ

3. 環境への取り組みの明文化

環境に関する具体的な取り組みは個々に実行されていますが、園全体や地域ぐるみ、ひいては社会的に重要な側面を担っているため、明文化して明確にするとともに、全体的に取り組むことができるような配慮が望まれます。

評価領域ごとの特記事項

1.人権の尊重	<ul style="list-style-type: none">・子どもに対する接遇について、業務マニュアルに詳細の規定があり、職員は読み込んで周知している。・訪問調査中にはせかせたり強制するような言葉遣いはなく、穏やかでゆっくりした調子で子どもに接していた。ただ、緊急時（嘔吐したとき）は職員同士できびきびした口調で処理をしていた。・子どものプライバシーを傷つけたりしないようにするため、職員会議で話し合いお互いに注意するような機会を設けている。・友だちや職員の視線を意識せずに過ごせる場所としては、遊びや生活の空間としては手狭なため確保は難しいが、事務所を開放して過ごせるように工夫している。・個人情報取り扱いには、保護者に説明し同意を得ている。ホームページなどに子どもの顔を掲載する場合も保護者の同意を得てから実施している。・子どもの遊びや行事の役割、持ち物、服装などで性別による差別は全くない。子どもの意見で決めている。
2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供	<ul style="list-style-type: none">・おもちゃや絵本は子どもたちに手の届く範囲にあり、自由に取り出して遊んだり、読んだりできるようになっている。・子どもたちは自分で机やイス、マットなどを利用してコーナーを作り、自由に遊んでいる。・異年齢保育で取り組んでいるお店やさんごっこは、子どもたちだけで好きなお店を決めたり、メンバーを決めて始めた。・子どもたちがごっこ遊びができるように、玩具コーナーや机に座ってできるコーナーなどを設け、子どもが自由に遊べる環境を整えている。・職員が子どもたちが自分から活動できるような言葉掛けを行って素材を上手に使っている。また、その成果を本人にほめると同時に友達にも伝え、成果をたたえ合うような声かけをしている。・食材については、産地表示があり、放射能検査も行い安全を期している。・栄養士は毎食子どもたちの食事の様子をうかがい、好きな食材や嫌いな食材を調査し、残食なども記録して今後の食事の献立や盛りつけや調理方法を考えている。・運営委員会の後、親子クッキングを行い、おやつを試食会をした。9月には給食の

	<p>試食会を実施した。好評であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SIDS対策として、0歳児は5分ごと、1歳児は10分ごとに呼吸チェックを行っている。 ・排泄は一人一人、排泄チェック表に記録して、リズムを尊重している。 ・トイレトレーニングは、保護者と綿密に連絡を取り合いながら無理をしない範囲内で行っている。
<p>3. サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育課程は、運営理念、運営方針に基づいて家庭の状況や地域特性、周辺環境に配慮して作成されている。 ・保護者には、入園時「入園のご案内」を配布し、在園児の保護者には4月の運営委員会で配付し説明している。 ・子どもから得た意見や要望は、できる限り受け止めて、実現できるように努めている。また、日常的には子ども一人一人のペースを大切に、月案や週案など指導計画を柔軟に変更するなどして対応している。 ・保護者とは入園前には子ども同伴で、園長・栄養士による個別面談を実施している。また、その記録を「入園前シート」に記録している。 ・ならし保育については園見学時や入園説明会で重要性を説明したうえで、子どもの状況に応じて実施している。 ・0,1歳児の入園児には、できるだけ特定の職員を決め、子どもと主担当職員との信頼関係が築けるようにしている。 ・乳児には個別の連絡帳を用意して、家庭の状況および保育園の状況を丁寧に記入して、家庭と保育園との連続性が分かるようにしている。 ・年間指導計画は年齢別に4期に分けて作成し、期ごとに評価・反省を行っている。月間指導計画は月ごとに評価・反省をし、それぞれ前月の振り返りを翌月の指導計画に反映させている。 ・評価・反省の内容を改訂する場合は、運営委員会、クラス懇談会、アンケート、個人面談などで得た意見を反映させて作成している。 ・衛生マニュアルに基づいて、清掃点検シートの項目に従って保育園の内外の清掃を行っている。 ・0～2歳児は月間個別指導計画を作成している。 ・幼児についても特別に課題がある場合は、保護者と相談して課題を明確にし共有しながら個別指導計画を作成している。 ・課題のある子どもは、個別のケースについて、設置法人の発達支援チームの巡回を得て配慮の必要な子どもに対する支援方法について話し合っている。 ・障がい児は保護者の同意をとり、南部地域療育センターや設置法人の臨床心理アドバイザー連携をとり、定期的に巡回し、相談巡回・指導を得ている。 ・アレルギー児については、かかりつけ医の指示書に従って、代替食・除去食を提供している。また、栄養士が保護者と面接をして、その対応を話し合い、アレルギー対応食を提供している。 ・苦情・要望の窓口として、ほかの機関も利用できるように、磯子区こども家庭支援課や設置法人、エリアマネージャーの連絡先を掲示している。



<p>4. 地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て家庭への育児相談や園庭開放を通じて、地域の子育て支援ニーズの把握に努めている。 ・設置法人本部職員の臨床心理アドバイザーによる講演会を開催している。 ・磯子区役所など行政からの育児情報や園での行事情報を地域の住民に配布している。 ・設置法人のホームページを活用したり、情報紙「ぱど」へ記事を載せてもらい、園情報を提供している。 ・関係機関等との連絡先はリスト化し、事務室前の廊下など職員が見やすい場所に掲示してある。
<p>5. 運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日の育児相談会では施設開放して住民の理解促進を図るほか、近隣の保育所や小学校と年間行事予定表を交換し、ともにイベントに参加したり備品や施設を借りたりしている。 ・朝の散歩は晴れている限り毎日「新杉田公園」などを訪れ、思う存分走り回り、遊具に親しんだりしている。 ・学区内の新杉田小学校体育館を借りて運動会を開催している。また、老人保健施設「なごやか屏風が丘」を訪問して高齢者と交流をしている。 ・地域のお祭りや消防の出初式に参加したり、近隣商業施設「ラビスタ」のイベントに親子で参加できるよう招待券を配付している。 ・最新保育情報をホームページで公開したり、磯子区役所や南部地域療育センターに保育園の案内パンフレットを配置させてもらっている。 ・地域の情報紙「ぱど」に園の情報を提供し、記事を掲載してもらっている。 ・将来の利用希望者である見学者や相談者には、運営方針やサービス内容を記したパンフレットを渡している。 ・ボランティアや実習生を受け入れるためのマニュアルが整備されており、受け入れ環境は整っている。 ・園長と受入れるクラスの担任が受け入れ担当者と決められている。 ・過去にはボランティアや実習生を受入れた記録は認められるが最近では、この一年間は実績が無い。問い合わせがあれば対応する方針である。
<p>6. 職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が入社時に、設置法人の代表者による「代表研修」のなかで、守るべき法規範や倫理が周知され、就業規則でも明記されている。また、コンプライアンス委員会が設置され、活動内容や委員名等が掲示されている。 ・裏紙の利用やエコキャップ収集、トイレトーパー芯を集めての遊具作成など、ゴミ減量化・リサイクルに取り組んでいる。 ・こまめに電気を消すとか、エアコンの温度調整をするなど省エネに取り組むと共に、プランターで草花や、きゅうり、トマト、人参、ブロッコリー、かぶ等の野菜を育て、食育や緑化にも取り組んでいる。 ・設置法人が目指す保育士像が記された漫画本を、全職員に配付して自己啓発を奨めている。 ・主要な人事異動や費用の変更など、重要な意思決定・変更については、目的、理由、経過などを職員や保護者に説明している。 ・設置法人の企画担当者やエリアマネージャーなど、園を客観的に見られる異部門職員によるチーム編成で課題に取り込む仕組みがある。 ・スーパーバイズできる主任を育成するプログラムは、保育士人材育成ビジョンの中で設定され、主任研修が行われている。

評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営理念は「子どもの自らのびようとする力を育てる保育を」「子どもの感受性や好奇心を自然な形で伸ばし後伸びする力を育てる保育を」「視覚・聴覚・味覚・嗅覚の五感を感じる保育を」、運営方針として「安全・安心を第一に」「お子さまにとっていつまでも思い出に残る保育を」「利用者のニーズにあった保育サービスを提供」となっており、いずれも子ども本人を尊重する内容になっている。 ・保育課程は、運営理念、運営方針に基づいて家庭の状況や地域特性、周辺の環境に配慮して作成されている。 ・保護者には、入園時「入園のご案内」を配布し、在園児の保護者には4月の運営委員会で配付し説明している。 ・理解できる子どもには、張り紙や丁寧に説明して納得できるようにしている。かみつきなど言葉を理解する成長過程で起こる出来事には、スキンシップで優しく接し、いけないことを伝えている。 ・子どもから得た意見や要望は、できる限り受け止めて、実現できるように努めている。また、日常的には子ども一人一人のペースを大切にし、月案や週案など指導計画を柔軟に変更するなどして対応している。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とは入園前には子ども同伴で、園長・栄養士による個別面談を実施している。また、その記録を「入園前シート」に記録している。 ・面接で得られた情報と、保護者から提出してもらった家庭状況や食事の状況、健康状態などは、児童票にファイルされている。 ・ならし保育については園見学時や入園説明会で重要性を説明したうえで、子どもの状況に応じて実施している。また、親子一緒にならし保育を提案し、子どものみならず保護者にも保育園生活に安心感を持ってもらえるようにしている。 ・0,1歳の入園児には、できるだけ特定の職員を決め、子どもと主担当職員との信頼関係が築けるようにしている。 ・乳児には個別の連絡帳を用意して、家庭の状況および保育園の状況を丁寧に記入して、家庭と保育園との連続性が分かるようにしている。 ・年間指導計画は年齢別に4期に分けて作成し、期ごとに評価・反省を行っている。月間指導計画は月ごとに評価・反省をし、それぞれ前月の振り返りを翌月の指導計画に反映させている。 ・評価・反省の内容を改訂する場合は、運営委員会、クラス懇談会、アンケート、個人面談などで得た意見を反映させて作成している。

I-3 快適な施設環境の確保



- ・衛生マニュアルに基づいて、清掃点検シートの項目に従って保育園の内外の清掃を行っている。
- ・園内の構造上、換気が難しいが、非常口のドアを開けるなどして換気をしている。保育室やトイレには臭気タイルを使用しているため、嫌な臭いがすることは少ない。特に乳児室は換気扇を使用している。
- ・菌やカビ防止のため、オゾン発生器を使用している。
- ・隣のクラスの声や音楽の大きさの調整は、職員同士で話し合っ活動内容が重ならないようにしている。日常保育の中では職員同士の声の大きさに気を配っている。
- ・沐浴・温水シャワーは衛生管理マニュアルに沿って使用ごとに洗い流し、毎日職員が清掃している。
- ・0歳児室はパーテーションや柵で仕切り、1歳児、2歳児室は柵で仕切り、その中を机・マット・いすでコーナーを作り、小集団活動を行っている。
- ・少人数になったときには職員同士で声を掛け合っ、異年齢の子どもたちと合同で遊ぶようにしている。

I-4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力




- ・0～2歳児は月間個別指導計画を作成している。
- ・幼児についても特別に課題がある場合は、保護者と相談して課題を明確にし共有しながら個別指導計画を作成している。
- ・個別の指導計画は毎月1回行われるケース会議で見直しを行い、その他毎日会議で保育の振り返りを行い子どもの発達状態の合わせて柔軟に計画を変更している。重要と思われる事項については、保護者、担任、園長の三者で面談を行い、変更について保護者の同意を得て行っている。
- ・入園前面接シートに子どもの生育歴や家庭の状況などを記録しておき、児童票ファイルに保管している。
- ・子どもの重要な申し送り事項は、進級時に新しい担任に引き継ぎ事項として伝えられている。
- ・保育所児童保育要録は5歳児の担任が記入して、小学校へ申し送りをかねて訪問持参している。


I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・課題のある子どもは、個別のケースについて、職員会議、毎日会議で話し合っている。また、年に2～3回、設置法人の発達支援チームの巡回を得て配慮の必要な子どもに対する支援方法について話し合い、情報を共有しながら記録を残し、日常の保育に活かしている。
 - ・障がい児は保護者の同意をとり、南部地域療育センターや設置法人の臨床心理アドバイザー連携をとり、定期的に巡回し、相談巡回・指導を得ている。
 - ・送迎時の様子や傷などの所見があったら、保護者に声をかけるなどして対応している。虐待が明白な場合は、直ちに虐待対応機関に通報するようにしている。
 - ・アレルギー児については、かかりつけ医の指示書に従って、代替食・除去食を提供している。また、栄養士が保護者と面接をして、その対応を話し合い、アレルギー対応食を提供している。
 - ・提供については、調理師と職員が食事の授受の際、食材リストでチェックして間違いの無いようにしている。
 - ・外国籍の子どもは、通常日本語での会話に問題はなく、子ども同士は自然体で遊びや会話ができるので、特別に配慮は必要としていない。家庭では英語で親子のコミュニケーションがとられているので、保育園でも、その子どもが寂しい思いをしないように、英単語を織り交ぜて会話をしている。
- <コメント・提言>
- ・アフリカのみならず、世界にはもっといろいろな国があり、それぞれ違った文化や食事や、考え方があことを子どもたちに教えていくことが望まれます

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-6 苦情解決体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が直接第三者委員に苦情を訴えることができるよう地域の方に第三者委員になってもらっており、氏名は玄関に掲示している。 ・保護者から意見や要望を吸い上げる手段として、ご意見箱や行事の後のアンケートや、日常的に送迎時にお話を受けている。 ・意見を出しにくい保護者のために、アンケートはご意見箱に入れてもらっている。また、プライベートな話がある場合には、事務所を締め切って話し合いの場所にし、一対一で話ができるように配慮している。 ・苦情・要望の窓口として、ほかの機関も利用できるように、磯子区こども家庭支援課や設置法人、エリアマネージャーの連絡先を掲示している。 ・苦情があった場合は職員会議で対応策を話し合い、解決を図っている。同時に設置法人にも報告をしている。 ・過去の苦情についての記録を残しており、職員には周知されている。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ-1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃや絵本は子どもたちの手の届く範囲にあり、自由に取り出して遊んだり、読んだりできるようになっている。 ・各クラス毎に、机や棚、パーテーションなどの配置を工夫し、発達過程に対応できるよう柔軟に配置している。 ・子どもたちは自分で机やイス、マットなどを利用してコーナーを作り、自由に遊んでいる。 ・合同保育の時間は兄弟のような感覚で、自由に好きなことをして遊んでいる。また、空間を分けてお互いに妨げにならないように工夫しながらブロック遊び、ままごと、お医者さんごっこ、道路セットあそび、折り紙など多彩な遊びをたのしんでいる。 ・異年齢保育で取り組んでいるお店やさんごっこは、子どもたちだけで好きなお店を決めたり、メンバーを決めて始めた。 ・子どもたちがごっこ遊びができるように、玩具コーナーや机に座ってできるコーナーなどを設け、子どもが自由に遊べる環境を整えている。 ・散歩で地域の人に出会った場合に、地域がら気軽に話しかける環境ではないことから、子どもから積極的に声をかけるようなことはしていない。 ・子どもの発達過程に応じて遊びのおもちゃや道具を使い分け、それを使って子どもが自由にさわったり、書いたり、歌ったりできるように支援している。 ・職員が、子どもたちが自分から活動できるような言葉掛けを行って、子どもたちは素材を上手に使っている。また、その成果を本人にほめると同時に友達にも伝え、成果をたたえ合うような声掛けをしている。 ・自由時間は自由に歌を歌うったり絵を描いたりしている。職員は見守るとともに、アドバイスなどを行っている。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物の飼育や植物の栽培を積極的に行うことが望まれます

Ⅱ－1 保育内容[生活]



- ・子どもが完食の喜びが味わえるよう配慮し、量を調整している。
- ・授乳は抱っこして、ゆったりとした雰囲気で行い、離乳食は個々の子どものペースに合わせて口に運んでいる。
- ・毎食お当番を決め、配膳や片付けのお手伝いをして食事の大切さを体感している。
- ・食事のいい匂いの漂う中、職員はエプロンをし、給食当番が配膳などをして、みんなで給食の歌を歌い、これから食事だという雰囲気を作っている。
- ・食材については、産地表示をし放射線検査を行なって、安全を期している。食器は衛生的な強化磁気製のものを使用している。
- ・栄養士は毎食子どもたちの食事の様子をうかがい、食材の好き嫌いを調査し、残食なども記録して、今後の食事の献立や盛りつけや調理方法を考えている。
- ・運営委員会の後、親子クッキングを行い、おやつを試食会をし、9月に給食の試食会を実施して好評であった。
- ・昼寝時、眠れない子どもには無理強いせず、静かに遊んだり絵本を読むなどしている。
- ・午睡時は、静かな音でオルゴールをかけたり、室内を暗くし静かな雰囲気になっている。
- ・SIDS対策として、0歳児は5分ごと、1歳児は10分ごとに呼吸チェックを行っている。
- ・5歳児は、就学に向け秋から昼寝をせずに過ごすようにしている。
- ・排泄は一人一人、排泄チェック表に記録して、リズムを尊重している。
- ・トイレトレーニングは保護者と綿密に連絡を取り合いながら無理をしない範囲内で行っている。

Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]



- ・健康管理マニュアルが整備されており、これに従って子どもの健康管理が行われている。個人別の健康状態、健康診断結果など職員は把握している。
- ・既往症については、入園時に家族からの情報を記録しており、職員は周知している。また、病気に関して保護者から情報を聞き、記録して対応している。
- ・送迎時には保護者に子どもの健康状態を伝えあい、降園後の対応について話し合っている。
- ・食後は、子どもは自分で歯を磨き、後で職員に仕上げ磨きをしてもらっている。歯科医に歯磨きの指導をもらっている。
- ・年2回の健康診断と、年1回の歯科健診が行われ、健診結果を個別にファイル保存している。
- ・健康診断、歯科健診結果は、所見のあった子どもについてのみ保護者に書面および口頭で知らせている。毎月行っている身体測定結果は、連絡帳またはシール帳に記載して保護者に伝えている。健康診断を受けられなかった子どもには、後日嘱託医の健診を受けるようにしている。
- ・子どもの健康で心配事がある保護者は、嘱託医に相談することができるように連携を図っている。
- ・入園のご案内や入園時の説明会で、感染症による登園停止基準や保育中に発生した場合の取り扱いについて話している。また、毎月保健だよりを発行して園内での発生状況や、園外での状況を知らせている。
- ・保育中に発生した場合は、熱や状態を確認して対応をし、保護者に連絡をしている。お迎えが来るまでは感染しないように事務所で寝かして様子を見るなどしている。
- ・緊急対応が必要な場合には、保護者に連絡を取るとともに、医療機関で受診する場合もある。
- ・感染症に関する情報は、区役所などから発信され、職員や保護者に発信をしている。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]





- ・設置法人作成の衛生管理マニュアルが整備されている。
- ・マニュアルは毎年1回見直しをしている。各園で見直しをし、その内容を設置法人で検討し、見直している。
- ・衛生管理マニュアルは、改訂時、職員会議および毎日会議で読み合わせを行い、全職員が周知している。
- ・職員は勤務に入る前、衛生管理表に従って、手洗いや服チェックを各自行っている。
- ・感染症の発生時期には、あらかじめ園内で予防法や嘔吐処理方法の研修を行っている。
- ・清掃は衛生管理マニュアルに基づいて、清掃チェック表を作成し、毎日、週に1回、月に1回、その都度など清掃頻度別にチェックする仕組みがある。

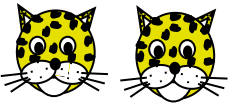

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]






- ・安全管理マニュアルが整備され、それに基づいて安全対策がとられている。
- ・地震対策として、棚や備品、布団庫の転倒防止策が施されている。
- ・設置法人で安全委員会が設置されており、定期的に各園を巡回し、定められたチェック項目について点検し、不具合があれば改善をして報告する体制になっている。
- ・緊急連絡体制は、職員、保護者、関係機関などの連絡網が整備され、事務所に掲示している。
- ・毎月1回緊急事態（地震・火災など）を想定した、避難訓練を行っている。
- ・職員は赤十字社幼児安全法の講習会に参加し、救急救命法を身につけている。（現在は5名）
- ・緊急時の連絡体制フローチャートを作成し、事務所に掲示している。
- ・子どもにケガが発生した場合、すぐに処置をするとともに園長に報告し、指示を仰いでいる。ケガの起こった様子やどのような処置をしたかアクシデントレポートに記録して、小さなけがであっても保護者に報告することとしている。
- ・病院へ行く場合にも保護者の了解を得ている。
- ・ケガについては職員会議で話し合い、再発防止策を検討し、全職員や保護者にも報告している。
- ・玄関はオートロックになっており、来訪者の顔を確認してから解錠している。
- ・不審者侵入防止策として、防犯カメラ、通報ベルがあり、合い言葉を決めて防犯訓練を行っている。
- ・不審者情報を区役所などから得られるようになっている。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ－３ 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに対する接遇について、業務マニュアルに詳細な規定があり、職員は読み込んで周知している。また、職員同士でお互いに注意し合ったりするように努めている。園長も、問題があれば注意するようにしている。 ・職員は、せかしたり強制せず、穏やかでゆっくりした調子で子どもに接していた。 ・子どものプライバシーを傷つけたりしないようにするため、職員会議で話し合いお互いに注意するような機会を設けている。 ・友だちや職員の視線を意識せずに過ごせる場所としては、遊びや生活の空間が手狭なため確保は難しいが、事務所を開放して過ごせるように工夫している。 ・プライバシー保護規定は研修などで周知し、設置法人に誓約書を提出している。（ボランティアや実習生も含む） ・個人情報の取り扱いについては、保護者に説明し同意を得ている。ホームページなどに子どもの顔を掲載する場合も保護者の同意を得てから実施している。 ・子どもの遊びや行事の役割、持ち物、服装などで性別による区別は無く、子どもの意見で決めている。 ・性差については、職員はほとんど差別の意識がないため、日常的には問題がない。 ・無意識に差別をする場合もあることから、職員会議などで、話し合うことが必要であると考え、話題にしている
<p>Ⅱ－４ 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者には、運営委員会、クラス懇談会や各行事の後に意見・要望を聞いている。 ・各行事の後のアンケートは、様々な意見が言えるよう自由記述式になっている。 ・パンフレットや重要事項説明書に、基本方針を掲載している。園だよりやクラスだよりに園目標などを掲載して、保護者に理解を求めている。 ・乳児の場合は、こまめに連絡帳で様子を伝えている。幼児の場合はクラスノートで暮らすの様子を伝えている。希望者には連絡帳を利用している。 ・玄関や保育室の掲示物などを工夫し、保護者同士が話しやすいようにしている。 ・保護者組織がないため、園とのコミュニケーションは個々の保護者とに限られている。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の送迎時に全員の保護者にその日の子どもの様子やエピソードを短時間に確実に伝えることは、非常に難しいことですが、伝える職員が変わっても、正確に子どもの様子やエピソードをもれなく伝えるために、申し送りノートに記入する事項を工夫されては如何でしょうか。保護者の中には幼児であっても、自分の子どもの様子などのエピソードを期待していることもあり、工夫が望まれます。 ・自主的な活動ができる保護者組織を作るのは難しいことですが、保護者同士の集まりなどが活発になるような仕掛け作りが望まれます。



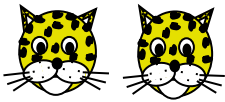
評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て家庭への育児相談や園庭開放を通じて、地域の子育て支援ニーズの把握に努めている。 ・毎週水曜日、地域住民に向けて育児相談の場を設け、園内外に掲示して、お知らせしている。 ・延長保育、障害児保育、産休明け保育など、地域住民の育児を支援するサービスを提供している。 ・園の見学者に対して、園の行事や運営委員会への参加をお誘いして理解を求めている。 ・設置法人本部職員の臨床心理アドバイザーによる講演会を開催している。 <p>＜コメント・提言＞ 今後、長期視点に立って、地域の子育てニーズについて職員間で話し合うことを期待します。</p>
<p>Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・磯子区役所など行政からの育児情報や園での行事情報を地域の住民に配布している。 ・設置法人のホームページを活用したり、情報紙「ぼど」へ記事を載せてもらい、園情報を提供している。 ・関係機関との連携担当者は園長が務めている。 ・磯子区役所とは日常的に密に連絡を取っており、南部地域療育センターとは随時連絡を取っている。 ・関係機関等との連絡先はリスト化し、事務室前の廊下など職員が見やすい場所に掲示してある。




評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日の育児相談会では施設開放して住民の理解促進を図るほか、近隣の保育所や小学校と年間行事予定表を交換し、ともにイベントに参加したり備品や施設を借りたりしている。 ・朝の散歩は晴れている限り毎日「新杉田公園」などを訪れ、思う存分走り回り、遊具で遊んでいる。 ・新杉田小学校体育館を借りて運動会を開催している。 ・また、老人保健施設「なごやか屏風が丘」を訪問して高齢者と交流をしている。 ・地域のお祭りや消防の出初式に参加したり、近隣商業施設「ラビスタ」のイベントに親子で参加できるよう招待券を配付している。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアグループと協力して行事を行うなど地域との計画的な交流が望まれます。
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・最新保育情報をホームページで公開したり、磯子区役所や南部地域療育センターに保育園の案内パンフレットを配置させてもらっている。 ・地域の情報紙「ぼど」に園の情報を提供し、記事を掲載してもらっている。 ・将来の利用希望者である見学者や相談者には、運営方針やサービス内容を記したパンフレットを渡している。 ・見学時間が事前に分れば希望にあわせて対応しているし、突然の訪問や土曜日でも、事情が許せば受け入れている。 ・園に関する問い合わせについては、園長が常時、対応している。
<p>Ⅳ－３ 実習・ボランティアの受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアや実習生を受け入れるためのマニュアルが整備されており、受け入れ環境は整っている。 ・園長と受入れるクラスの担任が受け入れ担当者と決められている。 ・過去にはボランティアや実習生を受入れた記録は認められるが、この一年間実績が無い。問い合わせがあれば対応する方針である。 <p><コメント・提言></p> <p>ボランティア受け入れは地域住民の理解や協力を得るためにも有効ですし、実習生受け入れは、次代を担う人材育成に繋がるのみでなく、日常の保育を振り返る機会にもなりますので、前向きな取り組みが期待されます。</p>

評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・各職員は年度初めに自己啓発計画を策定し、自己の資質向上に努めている。半期に一度、達成度を自己査定し、年度後半に向けての取り組みとしている。 ・社内外での研修が定期的に行われ、各職員は必要に応じて受講している。非常勤職員にも自由研修プログラムがあって、自由に選択し受講する事が出来る。 ・設置法人の系列園内では、エリアごとの「年齢別研修」を行い、同年齢の子ども達の指導方法などを、研究しあって見識を深めている。 ・研修結果は毎日会議で報告され、全職員が情報共有して、積極的にクラス運営に役立てている。 ・日常業務では、園長が各人の年齢、経験、性格などを考えて職員と非常勤職員の組み合わせを行っている。 ・園長は諸会議に出された課題を非常勤職員にも伝え、情報共有と資質向上に努めている。
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・各職員は年間資質向上計画に基づき、自己評価を計画的に行っている。 ・設置法人の発達支援・臨床心理アドバイザーの巡回など、外部から保育技術の評価・助言をいただき、技術向上に取り組んでいる。 ・指導計画の週案、月案、日誌等の「評価・反省」欄に各自の実践の振り返り、反省が記録されている。 ・各職員は園児の健康状態の把握やヒヤリ・ハットの振り返りを通して自己の保育技術を評価し、次期指導計画に改善策を盛り込んでいる。 ・第三者評価受審を機に、全職員による反省会を開き、園全体としての保育技術を自己評価し、課題への取り組み方を話し合っている。
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「人材育成ビジョン」と称する文書があり、各人の経験や能力に応じた役割が期待水準として明文化されている。 ・主任が配置されていないので、園長は外出時や緊急時には、主任に代る中堅職員に主な権限を委譲して、夫々の責任を明確にしている。 ・園長は日頃から職員と個別に話ができるような環境を整え、業務改善提案や意見を出しやすくしている。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・園長は、職員との面接を随時行うことにより、職員の満足度や要望などを把握するようにはしていますが、着任後、日が浅いので十分把握するまでには至っていないと認識しています。今後、職員の意識向上に一層努められることを期待します。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が入社時に、設置法人の代表者による「代表研修」のなかで、守るべき法規範や倫理が周知され、就業規則でも明記されている。また、コンプライアンス委員会が設置され、活動内容や委員名等が掲示されている。 ・他施設や他園での不正事案は毎日会議や月一回の職員会議で話し合い、専門家を招いた勉強会を開くなどして、職員の啓発に当たっている。 ・裏紙の利用やエコキャップ収集、トイレットペーパー芯を集めての遊具作成など、ゴミ減量化・リサイクルに取り組んでいる。 ・こまめに電気を消すとか、エアコンの温度調整をするなど省エネに取り組むと共に、プランターで草花や、きゅうり、トマト、人参、ブロッコリー、かぶ等の野菜を育て、食育や緑化にも取り組んでいる。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境への取り組み方や考え方を明文化し、園運営に活かすことが期待されます。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・理念や基本方針を明文化したものが、玄関入り口に掲示してある。 ・保育課程にも、園目標と共に理念や基本方針が記載され、職員会議などで周知させている。 ・設置法人が目指す保育士像が記された漫画本を、全職員に配付して自己啓発を奨めている。 ・主要な人事異動や費用の変更など、重要な意思決定・変更については、目的、理由、経過などを職員や保護者に説明している。 ・設置法人の企画担当者やエリアマネージャーなど、園を客観的に見られる異部門職員によるチーム編成で課題に取り込む仕組みがある。 ・スーパーバイズできる主任を育成するプログラムは、保育士人材育成ビジョンの中で設定され、主任研修が行われている。
<p>VI-3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人は、事業運営に影響のある情報を新聞や情報誌などから収集・分析して園に送達している。 ・園長は毎週、設置法人での園長会議に出席し、会議で得た情報を園職員に伝え、皆で議論して、重要改善課題として設定している。 ・重点改善課題は保育園全体の取り組みとして、各テーマ毎に改善点を話し合っている。 ・2013年までの5年間を目途とした中期運営計画が2008年7月に策定されている。2011年までの計画達成状況が記され、その後の2012年、最終の13年における目標が記入されている。 ・次代の組織運営については、設置法人の助言と指導のもと、次代の園長候補育成も視野にいれて、計画的な後継者の育成を、職員の経営意識向上と共に、進めている。

利用者家族アンケート

施設名:アスク新杉田保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

結果の特徴

◇ 調査対象

調査時点での在園児数40名、全保護者33家族を対象とし、回答は19家族からあり、回収率は58%だった。

◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接渡し、約2週間後までに密封して匿名で保育園で用意した回収箱に入れてもらい、密封のままの状態の評価機関が回収した。

◇ 総合満足度

施設に対する総合評価は、肯定的な回答は95%(満足26%、どちらかといえば満足69%)と高い評価であった。

◇ 比較的満足度の高い項目

- 1) 入園時の状況の設問では全般的に高い満足度を示しており、「保育園での1日の過ごし方の説明」「費用や決まりに関する説明」については肯定的回答が95%となっている。
- 2) 遊びの設問では、「戸外遊びを十分しているか」の項目を除いた平均で、肯定的回答が93%になっており、大部分の保護者は園での遊びにほぼ満足している。
- 3) 生活についての設問では、全ての項目を合わせて、肯定的回答が90%となっており、園の過ごし方にはほぼ満足していることを示している。
- 4) 園と保護者との連携・交流の設問では「保護者からの相談事への対応」「残業などで迎えが遅くなる場合の対応」では、肯定的回答がそれぞれ90%、100%となっている。
- 5) 職員の対応の設問では、全ての項目を合わせて、肯定的回答が90%となっており、職員への信頼は高い。

◇ 比較的満足度の低い項目

- 1) 年間の計画の設問で、「年間の保育や行事に保護者の要望が活かされているか」では、「どちらかといえば不満」「不満」を合わせた回答が32%になっており、園の計画に保護者の意向に添わない点がまだあるようにみうけられる。
- 2) 遊びの設問の中で、「戸外遊びを十分しているか」では肯定的回答が78%にとどまっており、保護者はもっと戸外遊びをしてほしいと望んでいる。
- 3) 園の快適さなどの設問で、「施設設備」、「落ち着いて過ごせる雰囲気」で、「どちらかといえば不満」「不満」を合わせた回答がそれぞれ37%、31%と高く、園の狭さや園庭がないことが影響していると考えられる。
- 4) 園と保護者との連携・交流の設問で、「園の様子や行事に関する情報提供」、「園行事の開催日への配慮」で、「どちらかといえば不満」「不満」を合わせた回答がそれぞれ32%、26%になっており、保護者との話し合いが十分でないことがうかがわれる。

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	11%	63%	11%	15%	0%	0%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	64%	36%	0%	0%	0%	0%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	32%	42%	0%	0%	26%	0%
	その他:					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	26%	58%	0%	0%	16%	0%
	その他:					
園の目標や方針についての説明には	26%	63%	0%	0%	11%	0%
	その他:					
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	48%	42%	5%	0%	5%	0%
	その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	42%	53%	0%	0%	5%	0%
	その他:					
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	37%	58%	0%	5%	0%	0%
	その他:					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	42%	37%	5%	16%	0%	0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	32%	32%	21%	10%	5%	0%
	その他:					

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	58%	37%	5%	0%	0%	0%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	63%	15%	11%	11%	0%	0%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	42%	48%	5%	0%	5%	0%
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	50%	40%	10%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	58%	42%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	47%	42%	5%	5%	0%	0%
	その他:					

生活について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	53%	42%	5%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	69%	26%	0%	0%	5%	0%
	その他:					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	58%	26%	5%	0%	11%	0%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	58%	26%	11%	0%	5%	0%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	48%	42%	0%	0%	5%	5%
	その他: まだ、始めていない。おむつが外れてから入園した。					
お子さんの体調への気配りについては	53%	47%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	58%	21%	5%	11%	5%	0%
	その他:					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	21%	37%	26%	11%	5%	0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	21%	48%	26%	5%	0%	0%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	63%	32%	5%	0%	0%	0%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	42%	37%	16%	0%	5%	0%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	42%	42%	11%	5%	0%	0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	47%	21%	21%	11%	0%	0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	32%	42%	5%	21%	0%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	42%	42%	11%	5%	0%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	37%	42%	5%	11%	5%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	37%	53%	10%	0%	0%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	63%	37%	0%	0%	0%	0%
	その他:					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	47%	53%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	58%	42%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	32%	47%	0%	0%	16%	5%
	その他:					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	47%	48%	0%	5%	0%	0%
	その他:					
意見や要望への対応については	37%	42%	11%	10%	0%	0%
	その他:					

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	26%	69%	5%	0%	0%

観察方式による利用者本人調査

平成 24 年 12 月 5 日、13 日

施設名：アスク新杉田保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

<0～1 歳児>

(登園)

子どもたちは、登園時保護者と一緒にそれぞれのクラスの保育室に入り荷物を置くと、みんなの集まっている保育室に行き、検温の後、おもちゃで遊んでいる。

みんなで集まって朝の会を始める。職員から今日の予定などを聞き、朝の歌を元気よく歌う。その後それぞれの子どもたちが好きな遊びを始めた。おもちゃ遊びが一番多く楽しそうに遊んでいる。

(散歩)

散歩の準備を始めた。身支度をし、ジャンパーを着、靴下をはく。自分ではけない子どもは職員に支援してもらっている。靴を履き点呼が始まった。大きな声で返事をする子ども、返事はできないが、職員の方を見る子どもなど様々である。まだ長い時間歩けないので、バギーに乗って職員が押して散歩に出かけた。車の多い大通りを抜け、電車の高架下を通り抜けて、やがて住宅街の中の坂道を上っていく。20 分ぐらい坂道を上ると、公園が見えた。公園に着いて点呼し、「あぶないのであっちの階段の方にはいかないでね」などの注意事項を聞いて、それぞれ好きな遊具のところに行き、遊び始めた。滑り台を何回も上がったり滑ったりする子ども、砂場で持ってきたおもちゃでお団子を作ったり、山を作ったり、思うような遊びに夢中になっている。中には注意されている階段の方へ何回も行ってしまう子どもがおり、職員は目が離せない。枯れ葉の上を職員がカサカサと音を立てて歩いて見せると、子どももまねをして枯れ葉の上をカサカサさせながらうれしそうに歩いていた。

しばらく遊んで、お茶を飲み、帰り支度をする。みんな名残惜しそうに公園を出て行った。帰りには、電車が上下線とも来たのをうれしそうに眺めていた。帰りのバギーの中で、疲れたのか居眠りをしている子どももいた。

園について、点呼をし、手足を拭いて保育室に入った。

<2～3 歳児>

(朝の散歩)

子ども達の吐く息も白く見える師走の朝、子ども達はピンクの帽子をかぶり、職員と手をつないだり、バギーに乗ったりして、歩道の左側を元気よく出発する。園のすぐ前を通る大きな通りを、

しばらくは、みんなだまって歩いている。スロープを登り、車の往來を下に見るこ線橋を上がると、「バス」とか、「ブーブ」と声をあげてのぞきこみ、走る車に興味を示している。橋を渡って前方に建築用の高いクレーンがそびえているのを子どもの一人が目ざとく見つけ、「高い！高い！」と指をさして連呼する。子ども達は天を突く高さに皆ビックリの様子だ。背丈の小さい子ども達にとっては、さらに高く見えたことだろう。

幾つかの通りを歩いて住宅街に入ると、道路の落葉を掃除する人達に「おはよう」と挨拶を交わす。また、大きなマンションの上のほうのベランダで、住民が子ども達の姿を見て、「おはよう」と言って、大きく手を振ってくれる。子どもたちも手を振って応える。

まもなく、「第5 杉田公園」に全員が無事到着した。職員が出発時と同様一人一人の園児の名前を呼び上げ、人数を数えて無事到着を点呼する。公園のブランコは危険なので使用せず、滑り台とお砂場遊びが中心で、子ども達はそれぞれ好きな遊具で元気に遊びまわる。子ども達は狭いところが好きらしく、職員の止めるのも聞かず、ベンチ裏側の雑草の生えた草むらを嬉々として走り抜ける。40分ほど遊んで帰途につく。

途中、通行中の主婦らに「ワア、可愛い！」と歓声を浴びたり、散歩中の子犬にジャレられたりして、楽しい2時間弱の朝の散歩は終わった。

帰園後、点呼が終わると、全員がウガイや手洗いなど行っている。

<2歳児>

(食事)

食事の準備ができるまで、絵本を読んだり、おもちゃで遊んだりしてくつろいでいる。自分でいすを使ってコーナーを作り、お友達とコーナーの中で遊んでいる子どももいる。

食事の歌を歌い、「いただきます」の合図で、食事が始まる。乳児は手でつかんで食べる子どももいるが、ほとんどがスプーンを上手に使って食べている。お話の好きな子ども、同じおかずばかりたべる子ども、順番に食べていく子ども、早く食べる子ども、なかなか進まない子ども、職員はそれぞれの子どもに気を配り、個々に支援をしている。お代わりする子どもも大勢いた。

早く食べた子どもたちは、歯磨きをし、職員に仕上げをしてもらって絵本やおもちゃで遊んでいる。

やがて布団を敷き、照明を暗くして眠りに入った。なかなか寝付かれない子どもには職員が添い寝をしたり、抱っこしたり、とんとんしたりそのうちに全員が眠りについた。その間職員は呼吸チェックをしたり、連絡帳を書いたりしている。

(遊び)

お昼寝から目がさめ、着替えて自由遊びになる。絵本を読む子ども、おもちゃで遊ぶ子ども、職員に抱っこをしてもらって甘えている子ども、泣き出す子どもなど職員は個々に対応している。

丁度その頃、おう吐する子どもがいて、その対応は担当職員と園長がすることになっており、迅速に適切に処理し、衛生上問題がないように始末した様子を観察できた。また、保護者にすぐさま

子どもの様子を電話で伝えお迎えを待った。

(帰りの時間)

保護者がお迎えに来る。荷物を準備したり、その日の様子を伝えたりしながら帰っていった。中にはまだ帰らないという子どももいて、しばらく園で親子で遊んでいた。

<5～6歳児>

(昼食)

12時近くになると、職員が大きなテーブルを3つほど並べて昼食の準備を始める。散歩から帰った子ども達は石けんで手を洗い、好きな本を取り出して食事の時間が来るのを待ち構えている。どの園児も人なつっこく、「僕の隣に来て」とか、「私の隣に座って」とか昼食時の座席を呼びかけ、手を強く引っ張って行く。

ご飯は、職員が子どもの顔を見ながら、過不足なく、完食できるように見計らって盛り付けしている。おかずやスープは子ども達が自分の好みの量だけ盛り付けている。年長組では、おかずやスープの盛り付けは自分でやることにしており、園児は楽しそうに参加している。黄色のトレイが見られないことから、このクラスではアレルギー対応児はいないことがわかる。

みんなの盛り付けが完了すると、2人のお当番が「今日のメニュー」を紹介し、全員そろっているかを尋ねる。当番の「みなさん、一緒にいただきます」の声で食事が始まる。職員が、「お代わりは12に針がきたところから3のところまで、4のところまで来たら“ご馳走さま”ですよ」と時計を見ながら予定時間を全員に知らせる。

子ども達は好物を先に食べてしまうこともなく、いわゆる三角食べも、ある程度できているようだ。3歳から始まったおはしの持ち方も、ほぼ全員うまく使っている。ご飯のお代わりに4～5人が列をなし、おかずの「すき焼き風豚肉」も好評でお代わりが多い。食事中に色々お話ししながら食事を楽しんでいる。ゆっくり食べている子どももいるが、職員は特に急がせたり、強要することもない。

食べ終わった子どもから各自食器を片付け、トレイを戻し始める。決められた時刻になると、皆で「ご馳走様でした」と締めくくる。歯磨きをする子、好きな本を取り出して読み始める子、レゴで自由な発想の玩具造りの子どもなど、食後のリラックスした時間を楽しんでいる。年長組は小学校入学に備え、午睡は週2回とされているので、一人一人静かに遊び始める。

H 2 4 年度第三者評価事業者コメント（アスク新杉田保育園）

【受審の動機】

第三者機関から公正で客観的な評価をしていただくことで、運営方針である「利用者に本当に求められているサービスを提供する」ことが実現できているかを把握し、また日々の保育を振り返ることでより良い保育の提供に繋げてゆきたいということが受審の動機です。

評価機関の選定につきましては、毎年同じ評価機関に依頼することで比較がしやすく、運営方針等も十分にご理解いただいた上で調査を実施していただけたと考えました。

運営本部としましても、ここで得られた保護者や職員の意見を元に業務改善へ取り組み、より一層サービスの向上を目指していきたいと思っております。また、評価結果を公表することにより、地域に開かれた保育園として信頼を得ると共に、利用者が自らの判断で保育園を選ぶことができるお手伝いができればと考えております。

【受審した結果】

第三者評価を受審することにより、全職員が評価項目の振り返りを行うことで、自園の保育の目指す方向性や理念を再確認し、今までの保育を見直す機会を得ることができました。

今回、情報共有の場を毎日持つことで、職員が全てのお子様の状況について把握していることを評価していただきました。小規模でアットホームという園の特性を生かし、今後もそれぞれのお子様に寄り添った保育ができるように努力してまいります。

今後の課題といたしましては、地域交流の強化が挙げられました。引き続き老人保健施設や小学校との交流を行ってゆくとともに、地域の団体等、新たなグループとの交流について職員間で話し合い、地域に根付いた開放的な保育園を目指して取り組んで参ります。

最後に、今回の受審にあたって、ご多忙にも関わらずご利用者調査にご協力いただいた在園児の保護者の皆様、ご尽力いただいた評価機関の皆様に心より感謝申し上げます。